

平成19年度(2)

コムギ遺伝資源小委員会及びNBRPコムギ運営委員会議事概要

日時：2008年3月30日（日）9:45 - 15:00

場所：京都大学東京連絡事務所（東京都千代田区丸の内1丁目7-12サピアタワー10F）出席者：

遠藤（京都大）、河原（京都大）、荻原（横市大）、辻本（鳥取大）、山崎（遺伝研）、古田（岐阜大）、村井（福井県大）、寺地（京産大）、中村（農水独法）、藤田（農水独法）、佐藤（岡山大）、小林（理研）（以上運営委員）；

笹沼（横市大）、那須田（京都大）、川浦（横市大）（以上実施担当者）；

吉原（遺伝研NBRP事務局長）、竹内（研究推進局ライフサイエンス課植物係）（以上オブザーバー）；

木庭（千葉大）、大田（福井県大）、森（神戸大）、宅見（神戸大）（以上コムギ小委員会委員）

報告事項：

1. 運営委員会委員等の確認

資料1に基づき、運営委員の確認。運営委員会と小委員会の関係、小委員会のメンバーについては審議事項で議論。

2. 運営委員長会議

遠藤は、ライフサイエンス課では本年度も神戸で開催される第27回分子生物学会（12月8日-11日）でリソースの利用促進を図るためのパネル展示・シンポジウムの企画を予定している旨の連絡があったことを報告した。

1）リソースの有償化について

コムギでは、材料費・ハンドリング費ともに慣例にしたがって無償とする

2）世界最高水準のリソースとは 3）NBRPの材料を使った論文における引用の仕方について

NBRP全体で統一できていない。NBRPの貢献がわかるように引用してもらえるのが望ましい。コムギではMTAに論文発表時に引用することと明示してある。引用自体は論文執筆者が行うことで、強制できない。少なくとも、運営委員、小委員会委員はしっかりと引用するように。PubMedから該当論文を抽出し、材料のIDと論文のIDを照合できるのが最善であるが、実際には難しい。年に一度、NBRP・コムギからリソースを提供したユーザーに対しメールを出し、リソースに関連した論文のリストを出してもらうようにする。

3. 19年度事業報告

1）リソースの配布について（遠藤、資料2）

ウェブ発注システム経由であったリクエストに対する送付件数について。目標

を達成している。

一回に大量にリクエストが有る場合の取り扱いについて（平成19年度に3件あり）。明らかにオーバータスクになるのは避けるべき。発注は一度に受けたほうがMTAの取り扱い上、簡便。発注システムに、「大量の場合は、相談させていただきます」等の一文を入れておいて、一度に受注し、用意できたものから発送することがあってもいい。

2) DNAマーカーの多型調査（那須田、資料3）

多型パネルの整備が遅れている。速やかに確定すべき。この問題は藤田（農水）と那須田で対応する。データの公表は出来るだけ速やかに行うべき。公表の仕方についても工夫が必要（増幅しなかったものも公表すべき）。

3) コムギ近縁野生種・コムギ在来品種の収集・調査・保存（河原、資料4）

約1300系統を3ヶ所（物集女、遺伝、木原）で分担して栽培中。系統の増殖・更新を主眼とし、系統内での分離は考慮に入れないし、形質調査はしない。不発芽系統は次年度に回す。分類のおかしそうな系統は穂のサンプルを残しておく。明らかに分類間違いのものは欠番とする。

4) DNAリソース（荻原、資料5）

ESTのデータを整理したかたちで出来るだけ早くユーザーに公開すべき。クローンの送付実績に遠藤氏の数（資料1）と齟齬がある（川浦氏が対応）。

4. ゲノム情報等整備状況（荻原、資料6）

解読を終えた完全長cDNAデータはMTAを交わした上で配布可能（CD-ROMで）。

5. 学会等での活動報告

12月の分子生物学会、3月のNBRPシンポジウムにおいてポスターと展示物で発表。ポスターの作成、展示物の用意、当日の説明係に関して横浜市立大学の荻原研究室に過剰な負担を強いているので、来年度からは軽減策を講ずるべき。

審議事項：

1. 20年度事業実施計

1) DNAマーカーの多型調査（那須田、資料3）

2) コムギ近縁野生種・コムギ在来品種の収集・調査・保存（河原、資料4）

全体で1400系統を予定。種子のバックアップシステムについて検討すべき（京都⇔横浜、京都⇔FAOのジーンバンク、京都⇔農水のジーンバンク）。

種子貯蔵庫のセキュリティー対策についても配慮。

3) DNAリソース（荻原、資料7）

【20年度事業実施計画全体についての討論】

- 必用なリソースの上限について、一般の人に説明できるよう準備する。
- リソースが闇雲に収集されているのではないことを示すためにも、「どんな目的で、何を、どこまで収集するか」を意識する。
- 収集リソース（とくにDNA、ゲノムリソースについて）の公表に際して、オオムギとのリンクも将来的には考える。
- コムギならではの特徴を持ったリソースの収集が望まれる。とくに、ゲノムリソースと種子リソースとのつながりが現時点では希薄。

2. KOMUGIデータベースの管理について

利用者が減っている。公開データベースの管理・運営について、NBRP・コムギ内にワーキンググループを作る。メンバーは、那須田、宅見、松岡、笹沼、石川、川浦、持田（持田氏については本人と所属機関の了承が得られれば）。当初は山崎氏の先導で、活動を始める。オンライン発注システムでの系統の表示の仕方に工夫が必要（研究室ごとではなく、種子のカテゴリーごとに提示すべき）。

「コムギの話」の改訂版（出来れば英語版も）を作成するか検討する。

3. 小委員会の役割について

NBRP・コムギの運営委員会とコムギ小委員会の関係について再確認（図はこちら）。小委員会のメンバーを見直す（農水から数名の参加を求める。4月11日締め切り）。今後の会議は、「NBRP・コムギ運営委員会」・「コムギ小委員会」というかたちで招集する（小委員会メンバーには旅費は支給できない）。「コムギ小委員会委員」はオブザーバーの立場で「NBRP・コムギ運営委員会」に参加できる。

その他：

1. 第12回の際コムギ遺伝学シンポジウムの招致（荻原） 第2回 ムギ類 研究会 ビジネスセッションの報告書（資料番号なし、荻原）に基づき説明。2013年開催予定国として立候補する方針で、実行委員会を立ち上げた（別紙リスト）。開催地候補は、横浜近辺。当面は今年8月の豪州でのIWGSにおけるプレゼンテーションへ向けて準備を進める。
2. 国際Triticeaeシンポジウムの開催について（河原） 2009年6月に京都で開催（詳細は資料4）
3. WIS（宅見）電子化しeWISとなってから3年が経過。次号より、松岡（編集長）、笹沼（副編集長）という体制に。積極的なコントリビューションを。

次回、「第3回 NBRP・コムギ運営委員会」・「コムギ小委員会」は平成20年10月13日に京都で開催予定

* 1-7の資料はこちら [pdf形式](#)
